

【KSKQ】



# あいえる らくがき帳

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認

毎月(1~8の日)発行

2016年11月号 No.187



○調理の仕事から障害福祉へ	2-3 P
～はじめたばかりの職員へインタビュー～	
○つながる気持ちに感謝！～ウィルプログラム活動報告～	4 P
○ナンクルナイサーへ事業所交流	5 P
○グループホームのパンフレット作成します！	6-7 P
○GANE 雅訪問記 第16弾 豊生園・なごみ編	8-10 P
○書道紹介・新聞切り抜き紹介	11-12 P
○週末一緒に出かけようよ☆	13 p
○藤井フミヤ 追っかけ旅行記（福岡編）	14 P
○浪速のロッキー！？現る☆	15 P
○エキスポ・ニフレル・美術館	16-17 P

～ほんわか外出企画上半期総集編～

あいえる協会のホームページが新しくなりました☆

<http://aiel.or.jp/>



# ヘルプセンター・ホップ

## 調理の仕事から障害福祉へ はじめたばかりの職員にインタビュー♪

福祉の仕事に興味はあっても、やったこともなければ知識もないし、自分にできるのかな?と感じる人もいると思います。でも、福祉の現場には、未経験から始めた人がたくさんいます。あいえる協会にも、以前は全く違う仕事だったという職員が何人もいて、4月に入社した池田奈緒さんもその一人です。



以前は調理の仕事をしていた池田さん(写真左)。障害福祉の仕事をはじめて、どんなことを感じているのか、教えてもらいました♪※写真是、利用者と一緒に昼ご飯を食べているところ。

### Q. 障害福祉の仕事は未経験だったんですね?

私は福祉の仕事に就いたのは今回が初めてで、専門学校などにも行ってなく車椅子を押したこともないくらいのド素人でした。

### Q. 仕事を始めてみてどうでしたか?

初めてのことだらけでしたので、当然いろんなことに悩んだし壁にもぶつかりました。入社してすぐ、身体障害のある方の介助に入らせていただきました。私が初めてぶつかった壁はその方の車椅子の座り直しでした。

### Q. 最初の壁はどうやって乗り越えたのですか?

(車椅子の後ろから体を)持ち上げようときゅっと力を入れると、利用者さんが小さくウッと声を出されるので、思わず力が緩んでしまいなかなか上手くできず、その日何度も座り直しをする事があったのですが、結局どれも何度もやり直しする形となってしまいました。

何度もやり直しをしていると研修同行している職員に「何度もやり直しをするのも相手はしんどいんだよ」と言われ、その時自分の考えの中にあったのは、力を入れると「相手

が苦しいから」という気持ちばかりで、やり直しをすることが相手にとてしんどいことなんだと気づく余裕がありませんでした。相手に遠慮しすぎるのも逆に迷惑になることを知ってからは、なるべく1回で終えられるようにしっかり力を入れて、介助できるようになりました。

### Q. いい気づきがあったのですね。他の方との関わりはどうですか？

今ではいろんな障害をお持ちの利用者さんと関わることが増え、1人1人介助方法が違う、新たに悩む部分も出てきています。例えば利用者さんの気持ちが不安定になり、そこからどうしたら気持ちの切り替えをしてもらえるのか、何をどう伝えたら本人さんに響くのか、なかなか頭の中に言葉が浮かんでこす苦戦しています。利用者さん1人1人の性格や行動を把握し理解していくには、やはりその人にたくさん関わり信頼関係を築いていくしかないと思うので、私も本気でぶつかり、自分のことを知ってもらおうと努力しています。

### Q. 頑張っていると、しんどくなることはありませんか？

本気でぶつかっていると介助の疲れとは別に、気持ちの面での疲れが出てきました。私自身「しんどいな」と思うことがあっても、あまり周りの人に相談出来ないという部分があり、常にネガティブな考え方になってしましました。初めの頃は慣れない仕事の不安やなかなか上達しない自分の介助技術に、悩んでばかりだったのですが、私の入社した協会のみなさんは何か悩んでいる事はないか、体調は崩していないかなど気にかけて下さり、自分から話を切り出すのが苦手な私でも、自然と相談できています。ストレスを溜めすぎないよう話をしやすい職場というのも、介護職を長く続けるためにはすごく大切だと感じています。

### 【悩むことはあるけれど、相談することで前に進める】

池田さんは、介助技術を学んで利用者と関係をつくりながら、ヘルパー派遣事務所での仕事の経験を積んでいるところです。利用者によって介助方法は違うので、まずは先輩職員による研修からスタートしますが、研修後も疑問や悩みが心に浮かぶことはよくあります。ひとりで悩むのは苦しいですし、私もなるべく抱え込まないよう、先輩や同僚、または当事者スタッフに相談しています。相談してみると、いいアドバイスをもらって前に進めたり、気持ちが楽になってまた頑張ろうと思えます。（文責：小林優）



ウィル

# つながる気持ちに感謝！

～ウィルプログラム活動報告～



## \* 缶・ペットボトルつぶし \*

私たちが作業している姿を見て、缶やペットボトルを持ってこられる方が多くなりました「また集めとくわ！！」「がんばってや」とお言葉を頂くと、また頑張ろう！という気持ちになります。

## \* カフェぬくぬく \*

地域のみなさんが集う場所として、少しでもウィルのこと、障害者の方を知って欲しいという思いで月1回交流スペースとして開放しています。その日ここで初めて会った人同士がお話をしている姿やウィルの利用者とお話しする姿を見ていると、やっていて良かったなと思う瞬間です。

## \* 飾りづくり（創作活動）\*

毎月季節にちなんだ絵や貼り絵を玄関のドアを使い、装飾していきます。色塗りや、大きな貼り絵をみんなで手分けして仕上げて行きます。その飾りを立ち止まって見る方や、毎月楽しみに見に来られる子どもたち。こうして見ている人がいると本当にうれしく思います。

（上の写真はちぎり絵でハロウィンのカボチャを作りました！）



缶つぶし！缶をきれいに洗います！

ぬくぬくはみんなとの交流の場です！！

ウィルで行う活動を通して地域の皆さんと話す機会も多くなり、利用者の皆さんのことも気にかけて頂くようになりました。私たちは日々感謝の気持ちを持って今後もつながりを大切に取り組んでいきたいです。

## ライフ・ネットワーク



### じぎょうしょこうりゅう ナンクルナイサーへ事業所交流

9月27日 4人のメンバーで西成区にあるナンクルナイサー（生活介護事業所）交流を行った時の報告をします。ナンクルナイサーの皆様その節は色々とお世話になりました。事業所へは午後に到着し、4階建ての3階で盛大に歓迎して頂きました。取り組みでは、BGMが流れる和やかな雰囲気の中、世界の国名当てに参加しました。（国名の最後に“ア”的つく国例：ロシア等）利用者の皆さんとてもよくご存じで約20カ国ほどの国を言葉でできたりとても楽しいひと時を過ごす事が出来ました。その後自己紹介・事業所紹介を利用者さんにしてもらい、ライフの製品販売やまかないランチ・ナンクルナイサーでは、Qちゃん販売による、ラスクや紅茶等の訪問販売等ほんの少しではありますがお互いの事を知ることができたと思っていますが、1階の喫茶店や入浴環境、スタッフメンバーとの交流など出来ずとても残念でした。今後もお互いの事業所への訪問や招待を重ねて友好関係・製品販売など色々な形で関係を深めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。



## 自立生活センター・まいど

# グループホームのパンフレットを作成します！

最近、「グループホームを探してほしい」「自立したいけど一人暮らしは不安」「グループホームと聞くけど、どんなものかわからない」等の相談をよく



お受けします。そんな地域の皆さんとの声や、グループホームの立ち上げを検討されている事業者さんからの相談等も過去にあり、地域自立支援協議会としてグループホームのパンフレットを作成することになりました。

このパンフレットは、制度から今実際にグループホームで生活をされている方のインタビューまで、グループホーム情報がぎっしりな一冊にできあがる予定です！



グループホームは希望される声が多い反面、立ち上げ数が決して多くありません。空きも少なく、特に重度の障害者を受け入れるグループホームは非常に少ない状態です。

大阪市では、入所施設からの地域移行を進めるということを第4期障害福祉計画で掲げていますが、現に目標に達していません。

「国の基本指針では、平成25年度末時点の施設入所者数の12%以上が平成29年度末までに地域生活へ移行することとともに、平成29年度末の施設入所者数を平成25年度末時点の施設入所者数から4%以上削減することを基本としつつ、第3期計画で定める平成26年度末までの実績が目標に満たないと見込まれる割合を加えて成果目標を設定すること」とされています。平成29年度末までに、平成25年度末の時点から「地域移行者数12%以上」「削減数4%以上」とすることを基本とし、目標に満たない実績値「地域移行約7%」「削減約5%」を加えて設定しているようです。

さらに、施設から退所しても地域の受け皿が十分ではないのです。「地域で暮らすための受け皿づくり」も市が課題として掲げて取り組んでいますが、そうした受け皿は増えていないのが現状です。グループホームは地域で生活するにあたって、とても重要な住まいの場なのです。



ここで地域移行支援の課題点に少し触れますが、地域移行支援というのは当事者が「地域移行をする」と宣言してからでないと使えません。しかし、ずっと施設で生活をされてきた方が地域での生活をイメージし、地域へ出ようと決心するのは簡単なことではなく、様々な情報を得て地域移行するためのきっかけを積み上げていく必要があります。このような仕組みでは、地域移行をする人が増えないと思うのです。この仕組みが整い、地域移行を考える方が増えることを望むばかりです。

このように、グループホームは生活の場だけではなく、地域移行を考えている万のワンステップの場としての役割も果たしています。  
地域移行のきっかけ作りのひとつとして、このパンフレットも活用してもらえたならと思っています。

文責：井上





# GANE雅訪問記

## 第16弾 豊生園・なごみ編

※GANE雅とは、我如古と下村による当事者コンビです



5月号で結成されたGANE雅の初取材！ 定期的に交流させていただき、らくがき帳でも何度も紹介させていただいた指定障がい者支援施設『豊生園』に、今回改めてお邪魔させていただきました！ ここでは、障害者の活動として、『ある物』の製造・販売を行っているのだと…気になりますね！

豊生園の一階は、喫茶店「なごみ」のスペースです。豊生園の入所者や通所の方が、スタッフと一緒に運営しています。ちょうどランチタイムに訪問したので、まずは腹ごしらえから…



### 喫茶『なごみ』名物 おぼろ丼

注文したのは、ランチメニューのおぼろ丼定食でしたが…なんという事でしょう。鶏ひき肉の丼かと思いきや、蒸したおぼろ豆腐が出てきたではありませんか。豆腐と薬味をご飯に載せて、ダシをかけて食べるのだと。右側の小皿は、ホウレンソウとコーンとベーコンの炒め物、豆腐の味噌汁、漬け物、お茶です。



それらしく盛りつけたところで、最近編集長の座を降りて普通の職員に戻った森嶋記者と三人で食レポ開始！



下村記者の  
食レポ

これなら夏でも食べやすい。夏バテ予防にちょうど良いと思う。



我如古記者の  
食レポ

温かい豆腐を今まで食べたことがなかった。コシというか、弾力が市販の物と全然違う。



森嶋記者の  
食レポ

豆腐の味が濃厚。ダシとの相性も抜群。豆腐のパラダイスや～！

このように、取材陣は口を揃えてべた褒めしました。食後にはコーヒーやミックスジュースなどのドリンクもついてきて、お値段は600円。ヘルシーメニューでしっかり食べたい人には、特にオススメしたいですね。



ということで、冒頭の『ある物』とは、豆腐でした。

豊生園では、作業の一つとして、豆腐の製造、販売を行っています。

担当職員や、利用者の方からお話を聞くことが出来たので、紹介します。

### 担当職員へのインタビュー

#### 本格的な製造器具！ お値段は…

——豆腐作りを始めた経緯を教えて下さい。

「豊生園を開所してすぐ、他とは違うことをやろうと思って始めたそうです。当時の職員が横浜市の障害者作業所で作り方を教わり、僕もその職員から作り方を教わりました」

——かなり本格的な設備ですね。

「例えば、この豆乳を作る機械は、700万円しました」

——700万！？ 本当に本格的ですね！

——作った豆腐は、どのように売っているんですか？

「喫茶『なごみ』で販売したり、おばろ丼定食に使用したり、春と秋には訪問販売を行ったりします」

